

2013 年度
調査報告書

中央競技団体の主催大会に関する
調査研究



〔共同研究者〕

早稲田大学スポーツ科学学術院 教授 武藤 泰明

目 次

I . 研究の概要	-----	1
II . 調査結果	-----	5
1 テニス全国大会の消費額試算	-----	5
1-1 テニスの全国大会について		
1-2 ケース 1 全日本ベテランテニス選手権大会		
1-3 ケース 2 全国レディーステニス大会 全国決勝大会		
2 ラグビー全国大会の消費額試算	-----	17
2-1 ラグビーの全国大会について		
2-2 ケース 1 全日本高等学校ラグビーフットボール大会		
2-3 ケース 2 全国大学ラグビーフットボール選手権大会		
2-4 ケース 3 日本ラグビーフットボール選手権大会		

I. 研究の概要

1. 研究のグランドデザインと本研究の目的・方法

1-1 グランドデザイン

本研究の結果を記す前に、研究の全体像を示しておきたい。研究の目的は、中央競技団体（NGB: National Governing Body）が開催している全国大会の経済的なプレゼンスを明らかにすることである。

○経済波及効果との関係

経済的なプレゼンスというと、よく使われるのは経済波及効果である。しかしこの研究では、経済波及効果の一般的な方法を用いることをしていない。この理由は、経済波及効果は産出に着目するものであることと、したがってともすればその推計値が過大になることである。本研究では、推計を移動費と滞在費（宿泊、飲食）に限定することとした。これであればマクロ経済でいう最終消費支出の一部を構成するものとなる。またこれは全国大会参加者が消費する金額でもあるので、スポーツの全国大会が経済に与える直接的な影響を表現する値としてふさわしいと考えた。なおこれは経済波及効果でいえば、一次効果（直接効果）の一部である。

○NGB 予算との関係

2012 年度の調査では統轄団体、すなわち（公財）日本体育協会、（公財）日本オリンピック委員会、そして（特非）日本ワールドゲームズ協会の三団体のいずれかに加盟している NGB のご協力を得、71 団体の予算書を手に入れることができたが、その支出の合計は 480 億円余であった。個々の NGB には予算規模が小さい団体もあるが、全体としての規模は小さくないといえるだろう。そしてこれらの団体はさまざまなカテゴリーの全国大会を開催しており、そのために人が移動し、滞在し、競技会が開催される。その費用はやはり小さいものではないと推察されるし、費用のほとんどは参加者が負担している。つまり各 NGB の財務諸表「外」で発生している。したがって、この費用を明らかにすることは、スポーツが日本、あるいは開催地に与える経済的影響を予算書の分析とは違うかたちで示すことになる。

○各都道府県で毎月 1 回の全国大会

ではそのプレゼンスはどの程度大きいのか。上記 3 統轄団体の少なくともひとつに加盟する NGB は 90 を超える。そして NGB の中には複数の競技を実施している団体もある。たとえば（公財）日本サッカー協会が所管している競技には、サッカーのほかにフットサルとビーチサッカーがある。（公財）日本バレーボール協会には 6 人制のほかに 9 人制とビーチバレーがある。ラグビーの 7 人制はオリンピック競技となったことで 15 人制とは別の大会が盛んになっていくだろう。これらを勘案して、仮に 100 の競技で全国大会が開催され则认为る。

次は学齢期別および年代別のカテゴリーである。小・中・高、そして大学、社会人

ないし実業団がある。大部分の競技で男女の別もある。学齢期や年代には、競技によってより細かい、あるいは大きな分類も考えられるが、各競技の平均カテゴリー数を、仮に 6 とする。したがって、競技数 100 にカテゴリー数の 6 を掛けると 600 になる。

つぎに、日本の都道府県数は 47 である。47 に 12（月数）を掛けると 564 であり、この 600 に近い。ということは、すべての都道府県において、毎月 1 回は何かの競技の何かしらのカテゴリーで全国大会が開催されているという計算になる。

重要なのは、1「日」ではなく 1「回」だという点である。もしその 47 都道府県の代表が集まる対抗戦型の競技会であれば、トーナメントは 6 段階になる。1 日にひとつのチームや選手が何試合も消化できる競技もあれば、サッカーや野球のように、ひとつのチームにとって、最大 1 日 1 試合しか実施できないと思われる競技もある。平均すれば、競技は何日間か開催される。それが毎月なのである。

○スポーツ MICE コンプレックス

全国大会を開催する地域では、毎月何日間かの経済効果を享受することになるが、効果はそれだけではない。

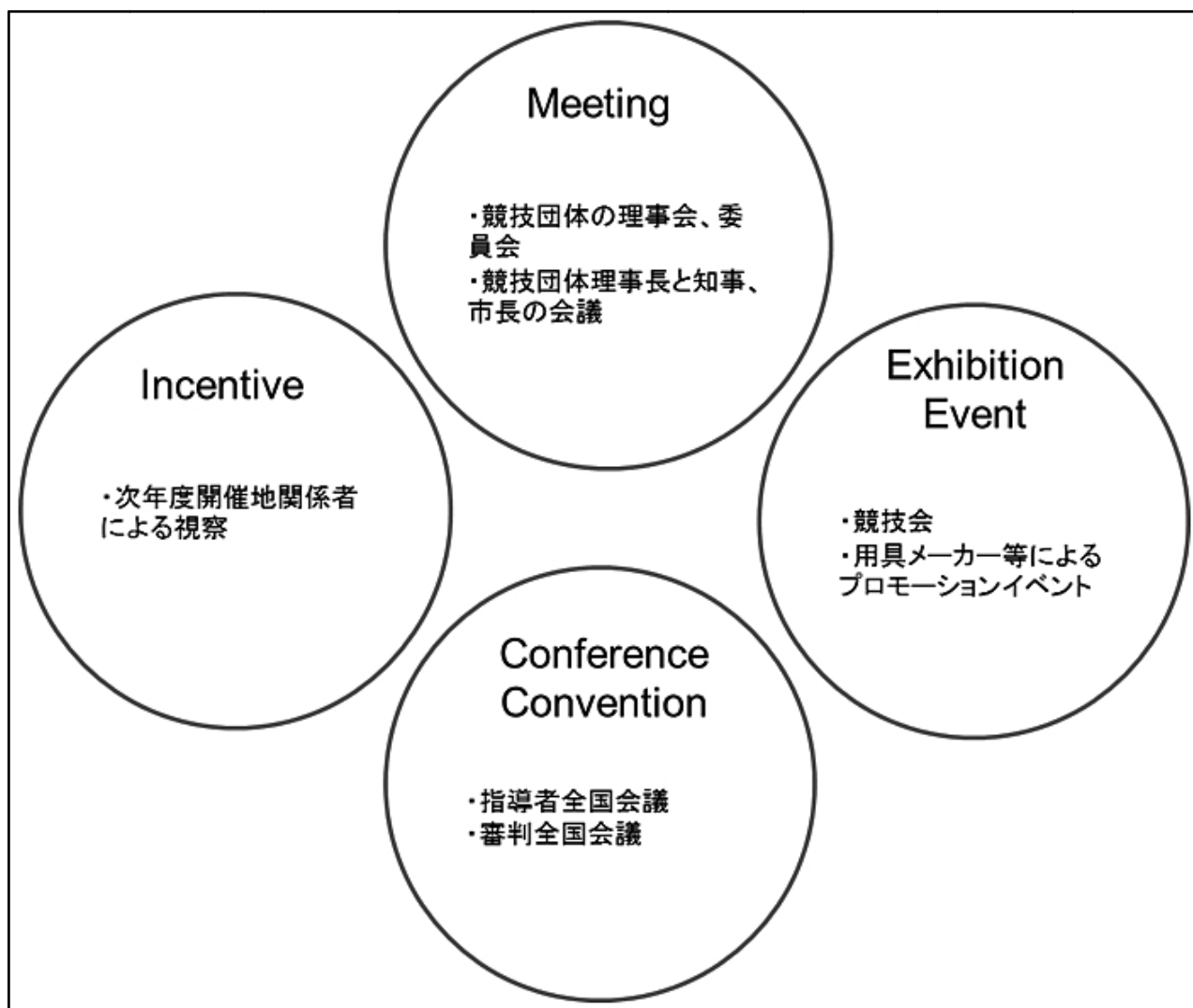
ツーリズム・ビジネスの用語に MICE というのがある。順に Meeting（会議、研修）、Incentive（招待旅行、視察）、Convention（大会、国際会議。または Conference）、Exhibition（展示会。または Event）である。MICE はあまりスポーツを意識していない概念のようだが、日本ではスポーツは旅行事業者にとって大きな商材であるだけでなく、イベントを受け入れる地域にとってもメリットが大きい。

重要なのは、スポーツの全国大会というのは、スポーツ施設に競技者が集まるだけのものではないという点である。一つの競技の高校の全国大会（いわゆるインターハイ）を例にとるなら、そこにはまず、トップレベルの高校の監督が 47 人集まっている。これ以外に、全国高等学校体育連盟（高体連）の当該競技の幹部と、中央競技団体の幹部も訪れる。競技会以外には全国から人が集まる機会が少ないので、理事会や委員会が開催されることも多い。また競技会があれば審判やスポーツドクターも集まる。NGB の理事長が来訪するのであれば、知事や市長との会議も設定されることになるだろう。大学や社会人のチームの指導者、スカウトも選手を見に来ている。また次年度開催地の関係者も視察に来ているものと思われる。これ以外には、強豪校に帯同する用具用品メーカーの担当者、スポーツ関係の食品や飲料メーカーの担当者の姿も見られるはずである。彼らにとって、全国大会は競技団体の幹部と接する絶好の機会である。また時間と場所が許すなら自社製品の展示や無料提供などの機会を設けたいと考えるだろう。

これらを MICE にあてはめれば図 1 のようになるが、ここで重要なのは、MICE の 4 つの要素が「同時に起こる」という点である。スポーツの競技会だけであれば、大きなイベントにはならない。しかし実際にはこれらの人々が来訪することにより、スポーツの全国大会は「複合型 MICE」になっている。したがって、全国大会を開催する

自治体には、競技施設・宿泊施設だけでなく、大会に係わるさまざまなインフラ整備が求められることともなるのである。

図 1 スポーツ MICE の複合性



注：一般的な MICE の図は、ツーリズムの 4 要素を並べたものである。

これに対してスポーツ MICE では、4 つの要素が「同時に生じる」という大きな特徴がある。

資料：武藤「地域スポーツと地域金融」月刊金融ジャーナル（2013.03）より一部改編

1-2 本調査の目的と方法

研究の全体構想としては、

- ・すべての中央競技団体、およびその都道府県団体・協力団体等が開催する
- ・すべての全国大会について
- ・すべての参加者（競技者、指導者、審判、協会関係者等）の
- ・移動費と滞在費

を知りたいと考える。しかしおそらく、この構想には「研究のための作業」としての現実味がない。全国大会の定義が難しく、また集計を依頼する各競技団体の負担が大きいためである。

そこで今年度は、（公財）日本テニス協会（JTA: Japan Tennis Association）と（公財）日本ラグビーフットボール協会（JRFU: Japan Rugby Football Union）の2団体の協力を得て、全国大会の事例を取り上げ、その消費額（旅費、滞在費）を計算してみることにした。これが円滑に進むのであれば、全団体を対象とした調査を検討することができる。

Ⅱ．調査結果

1 テニス全国大会の消費額試算

1-1 テニスの全国大会について

JTA テニスカレンダー（2013）によると、JTA が 2013 年度に主催、後援、承認、主管、共催および公認をした大会は全部で 645 大会であった。このうち、JTA が主催した全国大会は、ジュニア（小学生から高校生）10 大会、学生 3 大会、一般 5 大会、ベテラン 2 大会、実業団 3 大会の計 23 大会である（表 1）。

JTA は、「全日本テニス選手権」「地域テニス選手権大会」、日本テニスツアー大会および賞金付き大会などに出場する、JTA に選手登録をしたプレーヤーを対象として、JTA オフィシャルポイントランキング（通称：JTA ランキング）を採用している。ポイントは各大会のグレードと結果に応じて付与され、JTA ランキングはランキング対象大会の出場プレーヤーの決定およびその大会におけるシード決定の資料となる。同様に、男子 35 歳以上・女子 40 歳以上のベテランカテゴリーにおいても、ベテランジャパンオフィシャルポイント（以下、ベテラン JOP）を採用し、「全日本ベテランテニス選手権大会」をはじめ JTA および地域テニス協会が主催または公認する競技会のほか、都道府県テニス協会が主催するベテラン JOP 対象大会への出場によりポイントが与えられる。

本調査では、上記 23 大会のうち以下の 2 大会について試算を行った。

- ・全日本ベテランテニス選手権大会
- ・全国レディーステニス大会

表 1 日本テニス協会の主催大会（2013 年度）

No.	開催形態	年代	大会名
1	主催	ジュニア	第31回全国小学生テニス選手権大会
2	主催	ジュニア	第40回全国中学生テニス選手権大会
3	主催	ジュニア	2013U-15全国選抜ジュニアテニス選手権大会
4	主催	ジュニア	ダンロップ全日本ジュニアテニス選手権'13
5	主催	ジュニア	第34回全日本ジュニア選抜室内テニス選手権大会
6	主催	ジュニア	MUFGジュニアテニストーナメント2013
7	主催	ジュニア	2013RSK全国選抜ジュニアテニス大会
8	主催	ジュニア	2013ダンロップ全国選抜ジュニアテニス選手権大会
9	主催	ジュニア	全国高等学校総合体育大会テニス競技
10	共催	ジュニア	第36回全国選抜高校テニス大会
11	共催	学生	全日本学生テニス選手権大会
12	共催	学生	全日本学生室内テニス選手権大会
13	共催	学生	全日本大学対抗テニス王座決定試合
14	主催	実業団	第28回テニス日本リーグ
15	主催	実業団	第27回実業団対抗テニストーナメント
16	主催	実業団	第52回全国ビジネスパルテニス大会
17	主催	一般	第88回ニッケ全日本テニス選手権大会
18	主催	一般	第49回島津全日本室内テニス選手権
19	主催	一般	第68回国民体育大会テニス競技
20	主催	一般	第37回全日本都市対抗テニス大会
21	共催	一般	第35回全国レディーステニス大会
22	主催	ベテラン	第75回テイジン全日本ベテラテニス選手権
23	共催	ベテラン	日本スポーツマスターズ2013テニス競技大会

資料：日本テニス協会 2013 年度テニスカレンダーより作成

1-2 ケース 1 全日本ベテランテニス選手権大会

(1) 大会の概要

- ・ 名 称 第 75 回テイジン全日本ベテランテニス選手権大会
- ・ 開催期間 2013 年 9 月 30 日（月）～10 月 11 日（金）
- ・ 会 場 東山公園テニスセンター（愛知県名古屋市天白区）

全日本ベテランテニス選手権大会（以下、ベテラン大会）は男性 35 歳以上、女性 40 歳以上の 5 歳刻みのカテゴリーで男女それぞれシングルスとダブルスを行う。最高齢のカテゴリーは男性 80 歳以上、女性は 75 歳以上である。参加者は都道府県の代表ではなく、ベテランのカテゴリーの競技会に参加してポイントを得ていれば申し込むことができる。

(2) 移動費の計算

この大会には秋田、石川、島根の各県からの参加者がいなかった。他の 44 都道府県からの参加者について、計算方法は以下のとおりである。

1) 出発地は県庁所在地の駅とする。沖縄県については、那覇空港とする。また、兵庫県（元町駅）、福岡県（博多駅）、鹿児島県（鹿児島中央駅）は、県庁所在市の名と出発する駅名が異なる。

2) 航空機の使用については、

- ・ 陸路では名古屋駅まで 5 時間 30 分以上かかる
- ・ 空路利用の方が陸路より 2 時間以上早い

のいずれかを満たす場合に選択するものとする。該当するのは、北海道、青森県、秋田県、宮崎県、沖縄県の 5 道県である。

3) 経路にバスを含めるのは、以下の場合である。

- ・ 出発地が徳島県の場合、鉄道より時間短縮が見込めるため徳島駅から高速バス可
- ・ 出発する駅から最寄りの空港までのバス（札幌駅から新千歳空港など）

他の高速路線バスは使用しないものとする。

4) 片道 100km を超える場合は、有料特急の料金を適用する。

5) 特急は新幹線を含め指定席料金で計算する。

6) 鉄道、航空機ともに往復割引を利用しない。

これらを条件に運賃検索サイト「ジョルダン」を使用し、1) の出発地から JR 名古屋駅までの料金を算出した。これに、名古屋駅から市営地下鉄「八事日赤」駅を經由し、市バス「東山公園テニスセンター」停留所で降車するルートにかかる運賃 460 円（地下鉄 260 円、バス 200 円）を加算する。なお、運賃は研究時の 2014 年 3 月 14 日午後 3 時に競技会場の最寄り停留所へ到着するものを統一条件とし、複数の路線があ

る場合には、最も出発時刻が遅いものを選んだ。

計算結果を表 2 に示した。各都道府県からこの競技会場に行くのに、平均 31,623 円（往復）かかる。ここで平均といっているのは人数を勘案していない。44 都道府県からの 1 人あたり移動費の単純平均である。実際に移動しているのは表のとおり選手 928 人、審判 58 人、大会役員 21 人で合計 1,007 人である。選手の移動費は総額 2,175 万円、平均 23,445 円であった。審判・大会役員は地元周辺から来ている人が多いが、これを加えて移動費の総額を計算すると約 2,200 万円になる。選手移動費の総額とあまり変わらない。

表 2 第 75 回全日本ベテランテニス選手権大会の参加人数と移動費

都道府県	県庁所在地 (起点)	往復移動費 (1人当たり)	参加人数(人)				移動費総額(円)			
			競技者	審判	大会役員	計	競技者	審判	大会役員	計
北海道	札幌	85,000	29	0	0	29	2,465,000	0	0	2,465,000
青森県	青森	65,880	2	0	0	2	131,760	0	0	131,760
岩手県	盛岡	45,280	3	0	0	3	135,840	0	0	135,840
宮城県	仙台	39,660	4	0	0	4	158,640	0	0	158,640
秋田県	秋田	66,720	0	0	0	0	0	0	0	0
山形県	山形	41,180	3	0	0	3	123,540	0	0	123,540
福島県	福島	37,160	5	0	0	5	185,800	0	0	185,800
茨城県	水戸	29,260	17	0	0	17	497,420	0	0	497,420
栃木県	宇都宮	30,820	9	0	0	9	277,380	0	0	277,380
群馬県	前橋	31,460	16	0	0	16	503,360	0	0	503,360
埼玉県	大宮	27,900	61	0	0	61	1,701,900	0	0	1,701,900
千葉県	千葉	23,540	66	0	0	66	1,553,640	0	0	1,553,640
東京都	東京	22,480	165	0	2	167	3,709,200	0	44,960	3,754,160
神奈川県	横浜	21,680	135	0	0	135	2,926,800	0	0	2,926,800
新潟県	新潟	39,660	4	0	0	4	158,640	0	0	158,640
富山県	富山	18,620	3	0	0	3	55,860	0	0	55,860
石川県	金沢	16,520	0	0	0	0	0	0	0	0
福井県	福井	12,840	1	0	0	1	12,840	0	0	12,840
山梨県	甲府	27,820	2	0	0	2	55,640	0	0	55,640
長野県	長野	36,520	8	0	0	8	292,160	0	0	292,160
岐阜県	岐阜	1,820	15	4	0	19	27,300	7,280	0	34,580
静岡県	静岡	13,280	19	0	0	19	252,320	0	0	252,320
愛知県	名古屋	920	21	50	16	87	19,320	46,000	14,720	80,040
三重県	津	4,620	13	4	1	18	60,060	18,480	4,620	83,160
滋賀県	大津	12,580	3	0	0	3	37,740	0	0	37,740
京都府	京都	12,200	19	0	0	19	231,800	0	0	231,800
大阪府	大阪	13,680	78	0	1	79	1,067,040	0	13,680	1,080,720
兵庫県	元町	14,940	102	0	0	102	1,523,880	0	0	1,523,880
奈良県	奈良	13,680	28	0	0	28	383,040	0	0	383,040
和歌山県	和歌山	17,840	4	0	0	4	71,360	0	0	71,360
鳥取県	鳥取	26,000	1	0	0	1	26,000	0	0	26,000
島根県	松江	30,320	0	0	0	0	0	0	0	0
岡山県	岡山	22,880	16	0	0	16	366,080	0	0	366,080
広島県	広島	28,580	14	0	0	14	400,120	0	0	400,120
山口県	山口	32,340	5	0	0	5	161,700	0	0	161,700
徳島県	徳島	23,220	4	0	0	4	92,880	0	0	92,880
香川県	高松	25,760	2	0	0	2	51,520	0	0	51,520
愛媛県	松山	32,060	4	0	1	5	128,240	0	32,060	160,300
高知県	高知	30,800	2	0	0	2	61,600	0	0	61,600
福岡県	博多	36,980	28	0	0	28	1,035,440	0	0	1,035,440
佐賀県	佐賀	40,260	5	0	0	5	201,300	0	0	201,300
長崎県	長崎	43,400	1	0	0	1	43,400	0	0	43,400
熊本県	熊本	44,860	5	0	0	5	224,300	0	0	224,300
大分県	大分	40,140	1	0	0	1	40,140	0	0	40,140
宮崎県	宮崎	67,400	1	0	0	1	67,400	0	0	67,400
鹿児島県	鹿児島中央	50,820	3	0	0	3	152,460	0	0	152,460
沖縄県	那覇空港	84,920	1	0	0	1	84,920	0	0	84,920
平均／合計		31,623	928	58	21	1,007	21,756,780	71,760	110,040	21,938,580

注：起点は那覇空港を除き県庁最寄の主要駅であり表には駅名を表記した。

（３）滞在費の計算

第 75 回大会は 12 日間にわたる期間の長い大会だったが、これはカテゴリー（男女・単複）ごとに開催をずらして実施していたため、カテゴリーごとの実施期間は 3～6 日である。年齢に配慮しているためか 1 日に 1 回戦しか組まれないので実施期間が長い。ただしシングルスとダブルス両方に出場する選手は 1 日 2 試合の参加があり得る。

滞在費については

- 1) 試合出場の前日に宿泊する。逆に言えば、翌日に試合がない場合は宿泊しない
- 2) 単価は一泊（食費込）12,000 円であるとする。

出場者数を大会方式から計算すると、シングルス 523 人（男子 341 人＋女子 182 人）、ダブルス 632 人（男子 344 人＋女子 288 人）となる。一方、実際の参加者数は 928 人なので、 $523 + 632 - 928 = 227$ 人がシングルスとダブルス「かけもち」で出場していることになる。

トーナメント日程から上記 1) にしたがって宿泊数を計算すると、男子シングルス出場者 341 名の延べ宿泊数は 662 泊となる（表 3）。1 人平均 2 泊弱ということである。「35 歳以上」から「70 歳以上」は年齢カテゴリーにおける出場者数は同じで、12 人（予選出場者） $\times$ 1 泊＋32 人（予選通過者 6 人＋本戦からの出場者 26 人） $\times$ 1 泊＋16 人（2 回戦進出） $\times$ 1 泊＋8 人（3 回戦進出） $\times$ 1 泊＋4 人（準決勝進出） $\times$ 1 泊＋2 人（決勝進出） $\times$ 1 泊の合計で、それぞれ 74 泊である。

「75 歳以上」は、10 人（予選出場者） $\times$ 1 泊＋16 人（予選通過者 5 人＋1 回戦出場者 11 人） $\times$ 1 泊＋16 人（2 回戦進出 8 人＋シード 8 人） $\times$ 1 泊＋8 人（3 回戦進出） $\times$ 1 泊＋4 人（準決勝進出） $\times$ 1 泊＋2 人（決勝進出） $\times$ 1 泊の合計で 56 泊、「80 歳以上」は予選がなく、本選出場者 8 人の宿泊数は上記に倣い 14 泊となる。

同様に、女子シングルス出場者は 182 人、延べ宿泊数は 350 泊で、年齢カテゴリー別の宿泊数は男子シングルス「75 歳以上」と「80 歳以上」と同じである。

男子ダブルス出場者は 344 人、延べ宿泊数は 648 泊、女子ダブルス出場者が 288 人、延べ宿泊数は 544 泊となる。それぞれの年齢カテゴリーの宿泊数を計算する際に留意すべきは、最も出場者の多いカテゴリーで 2 回戦から出場する 8 組 16 人がいる点で、計算は 32 人（1 回戦） $\times$ 1 泊＋32 人（2 回戦進出 16 人＋シード 16 人） $\times$ 1 泊＋8 人（準決勝進出） $\times$ 1 泊＋4 人（決勝進出） $\times$ 1 泊の合計 92 泊となる。

また、ダブルス出場者 632 人のうち 227 人はシングルス出場とかけもちで、かつ同じ年齢カテゴリーのシングルスとダブルスは開催期間が同じであるので、ここでは、「かけもち」の選手の宿泊を除外している。式としては

ダブルスだけの出場者の延べ宿泊数：a

ダブルス総出場者数：b

ダブルスかけもち出場者数：c

ダブルス延べ宿泊数（かけもち出場者分ダブルカウント込）：d

として、

$$\begin{aligned} a &= d * c / b \\ &= (\text{男子 } 648 \text{ 泊} + \text{女子 } 544 \text{ 泊}) \times 227 \text{ 人} \div (\text{男子 } 344 \text{ 人} + \text{女子 } 288 \text{ 人}) \\ &= 428 \text{ 泊} \end{aligned}$$

である。

実際には、シングルスで早々と敗退して 2 日後からダブルスが始まるという人もいるかもしれない。この場合、実際の延べ宿泊数は上の式で計算されるものより多くなる。つまり確実に誤差があるのだが、本研究の目的は「実態に近い数字を示すこと」なのでこの計算式を採用する。

上記 428 をダブルス延べ宿泊数の 1,192 から差し引くと 764 泊になる。これにシングルス出場者（こちらはかけもちを含む）の延べ宿泊数 1,012 泊を加えると 2,204 泊、1 泊 12,000 円とすると、この大会に参加する競技者の滞在費総額はおよそ 2,644 万円になる。

表 3 第 75 回全日本ベテランテニス選手権大会の出場者数と宿泊数（延べ）

種目	男子シングルス					男子ダブルス	
	予選 出場者	予選 通過者	本選から の出場者	出場者計	宿泊数	本選から の出場者	宿泊数
35歳以上	12	6	26	38	74	32	60
40歳以上	12	6	26	38	74	32	60
45歳以上	12	6	26	38	74	32	60
50歳以上	12	6	26	38	74	32	60
55歳以上	12	6	26	38	74	32	60
60歳以上	12	6	26	38	74	48	92
65歳以上	12	6	26	38	74	48	92
70歳以上	12	6	26	38	74	48	92
75歳以上	10	5	19	29	56	24	44
80歳以上	-	-	8	8	14	16	28
計	106	53	235	341	662	344	648

種目	女子シングルス					女子ダブルス	
	予選 出場者	予選 通過者	本選から の出場者	出場者計	宿泊数	本選から の出場者	宿泊数
40歳以上	10	5	19	29	56	32	60
45歳以上	10	5	19	29	56	32	60
50歳以上	10	5	19	29	56	48	92
55歳以上	10	5	19	29	56	48	92
60歳以上	10	5	19	29	56	48	92
65歳以上	10	5	19	29	56	32	60
70歳以上	-	-	8	8	14	32	60
75歳以上	-	-	-	-	-	16	28
計	60	30	122	182	350	288	544

注 1：ダブルスには予選がない。

注 2：本文に記載したとおり、実際にはシングルスとダブルス両方に出場している参加者がいるので滞在費の計算に際してはこれを除外している。

資料：JTA 資料より作成

2-3 ケース2 全国レディーステニス大会 全国決勝大会

(1) 大会の概要

- ・ 名 称 ソニー生命カップ第35回全国レディーステニス大会全国決勝大会
- ・ 開催期間 2013年11月13日(水)～16日(土)
- ・ 会 場 昭和の森テニスセンター(東京都昭島市)

地方予選を勝ち上がった各都道府県の代表チーム(東京都、大阪府、埼玉県は2チーム)合計50チームの全国大会である。1チームは6人で、試合はすべてダブルスである。

(2) 移動費の計算

基本的にベテラン大会の計算方法(p.7参照)と同じとし、以下に異なる項について記載する。

2) 航空機については

- ・ 陸路では昭島駅まで6時間以上かかる
- ・ 空路利用のほうが陸路より2時間以上早い

のいずれかを満たす場合選択するものとする。該当するのは、北海道、島根県、徳島県、愛媛県、高知県、九州7県と沖縄県の13道県である。

3) 出発する駅から最寄りの空港まではバスを利用することができる。これ以外はバスを利用しない。

この条件に運賃検索サイトを使用し、到着地のJR青梅線昭島駅までの料金を算出した。

ベテラン大会でJR名古屋駅まで5時間30分、これに対して全国レディーステニス大会(以下、全国レディース)ではJR昭島駅まで6時間としたのは、ベテラン大会では名古屋駅から目的地にさらに移動するためであり、実質的には目的地まで陸路で6時間という条件になっている。

都道府県別の単純平均は36,591円である。つまり、名古屋市内の会場へ行くより4,968円多い。

つぎに移動費の総額を求める。各県代表は選手6名と監督1名の計7名で構成されている。前述のとおり2チームが出場している埼玉県、東京都、大阪府については、2チーム分の選手12名と監督1名の計13名となる。結果は総額約1,200万円であった(表4)。1人あたり単価は約35,000円である。

この大会では、各チームの観戦者が同行している。そのおよその人数をJTAが把握しているので、これについても移動費を求めると、1,480人で約4,000万円である。1人あたりの平均単価は27,000円強になる。出場チームより応援に来る人のほうが単価が低いのは、会場近隣からの応援が多いことによる。つまり、東京都で開催すれば、

一都三県（埼玉、千葉、神奈川）の代表を応援する人は時間的にも費用面でも会場に来やすいので人数が多く、これが移動費の平均単価を引き下げることになる。とはいえ、移動費は観戦者が多いことによって増えている。

表 4 第 35 回全国レディーステニス大会の参加人数と移動費

都道府県	県庁所在地 (起点)	往復移動費 (1人当たり)	参加人数(人)				移動費総額(円)			
			選手+監督	審判	大会役員	観戦者	選手+監督	審判	大会役員	観戦者
北海道	札幌	70,520	7	0	0	20	493,640	0	0	1,410,400
青森県	青森	33,380	7	0	0	20	233,660	0	0	667,600
岩手県	盛岡	27,280	7	0	0	20	190,960	0	0	545,600
宮城県	仙台	21,400	7	0	1	30	149,800	0	21,400	642,000
秋田県	秋田	33,200	7	0	0	20	232,400	0	0	664,000
山形県	山形	23,100	7	0	0	20	161,700	0	0	462,000
福島県	福島	17,640	7	0	0	20	123,480	0	0	352,800
茨城県	水戸	8,660	7	0	1	50	60,620	0	8,660	433,000
栃木県	宇都宮	9,020	7	0	0	40	63,140	0	0	360,800
群馬県	前橋	9,020	7	0	0	40	63,140	0	0	360,800
埼玉県	大宮	1,380	13	13	5	80	17,940	17,940	6,900	110,400
千葉県	千葉	2,420	7	14	7	90	16,940	33,880	16,940	217,800
東京都	東京	1,380	13	13	9	130	17,940	17,940	12,420	179,400
神奈川県	横浜	1,560	7	12	7	90	10,920	18,720	10,920	140,400
新潟県	新潟	20,780	7	0	0	30	145,460	0	0	623,400
富山県	富山	22,800	7	0	0	20	159,600	0	0	456,000
石川県	金沢	25,020	7	0	0	20	175,140	0	0	500,400
福井県	福井	31,840	7	0	0	30	222,880	0	0	955,200
山梨県	甲府	6,060	7	0	0	40	42,420	0	0	242,400
長野県	長野	13,840	7	0	0	30	96,880	0	0	415,200
岐阜県	岐阜	23,860	7	0	0	30	167,020	0	0	715,800
静岡県	静岡	12,980	7	0	1	40	90,860	0	12,980	519,200
愛知県	名古屋	21,980	7	0	0	30	153,860	0	0	659,400
三重県	津	25,680	7	0	0	30	179,760	0	0	770,400
滋賀県	大津	27,200	7	0	0	20	190,400	0	0	544,000
京都府	京都	26,820	7	0	0	20	187,740	0	0	536,400
大阪府	大阪	28,520	13	0	2	30	370,760	0	57,040	855,600
兵庫県	元町	30,380	7	0	1	30	212,660	0	30,380	911,400
奈良県	奈良	27,880	7	0	0	20	195,160	0	0	557,600
和歌山県	和歌山	31,640	7	0	0	20	221,480	0	0	632,800
鳥取県	鳥取	37,880	7	0	0	20	265,160	0	0	757,600
島根県	松江	71,440	7	0	0	20	500,080	0	0	1,428,800
岡山県	岡山	33,720	7	0	0	20	236,040	0	0	674,400
広島県	広島	37,000	7	0	0	20	259,000	0	0	740,000
山口県	山口	40,860	7	0	0	20	286,020	0	0	817,200
徳島県	徳島	66,500	7	0	0	20	465,500	0	0	1,330,000
香川県	高松	36,380	7	0	0	20	254,660	0	0	727,600
愛媛県	松山	71,040	7	0	0	20	497,280	0	0	1,420,800
高知県	高知	70,840	7	0	0	20	495,880	0	0	1,416,800
福岡県	博多	72,340	7	0	0	20	506,380	0	0	1,446,800
佐賀県	佐賀	77,000	7	0	0	20	539,000	0	0	1,540,000
長崎県	長崎	86,040	7	0	0	30	602,280	0	0	2,581,200
熊本県	熊本	81,380	7	0	0	30	569,660	0	0	2,441,400
大分県	大分	80,840	7	0	0	20	565,880	0	0	1,616,800
宮崎県	宮崎	80,720	7	0	0	20	565,040	0	0	1,614,400
鹿児島県	鹿児島中央	84,240	7	0	0	30	589,680	0	0	2,527,200
沖縄県	那覇空港	54,300	7	0	0	20	380,100	0	0	1,086,000
平均/合計		36,591	350	52	34	1,480	12,226,000	88,480	177,640	40,609,200

注：観戦者は出場チームの各都道府県からの観戦者。

（３）滞在費の計算

全国レディースはベテラン大会に比べると開催日数が短く、大会前日が監督会議と組み合わせの決定、大会そのものは翌日から３日間である。１日に最大２試合を行う。初日が１・２回戦で、１６チームが勝ち残る。２日目３回戦と準々決勝、最終日が準決勝と決勝、３位決定戦である。

ベテラン大会と同じように、試合の前日には宿泊するという前提を置く。そうすると、宿泊チーム数は５０チーム（初日出場）×１泊＋１６チーム（２日目出場）×１泊＋４チーム（最終日出場）×１泊の延べ７０チームになり、１チームは監督含め７人なので、宿泊数は４９０である。これに単価１２,０００円を掛けると、選手と監督の滞在費総額は５８８万円となる。

滞在するのは選手と監督だけでなく、観戦に来た人々も同様であろう。観戦者は１,４８０人であり、選手・監督の４倍強である。ただし、一都三県（埼玉、千葉、神奈川）からの観戦者３９０人は、宿泊しないと考える。したがって、滞在費計算の対象となるのは１,０９０人で１チームあたりにすると２４.８人となる。この２４.８人を一組として、延べ６２組〔７０チーム×〔５０チーム－６チーム（一都三県）〕÷５０チーム〕が宿泊する。延べ宿泊者数は１,５３８人、滞在費用は１,８４５万円となる。したがって、選手・監督と観戦者の総滞在費用は２,４００万円程度となる。移動費が５,２００万円なので、総費用は７,６００万円である。

2 ラグビー全国大会の消費額試算

2-1 ラグビーの全国大会について

JRFU が 2013 年度に主催した全国大会は、小学生を対象とした「サントリーカップ 第 10 回全国小学生タグラグビー選手権大会」から、社会人ラグビーの全国リーグである「ジャパンラグビートップリーグ」まで、年齢やレベル別に 21 大会ある（表 5）。このうち「第 68 回国民体育大会（スポーツ祭東京）ラグビー競技」は（公財）日本体育協会、文部科学省、東京都との共催で開催された。また「全国高等学校ラグビーフットボール大会」は、全国高等学校総合体育大会の一環であり、（公財）全国高等学校体育連盟と大阪府、大阪府教育委員会などと共催する大会である。

JRFU は、ラグビーワールドカップ 2019 日本開催と、2016 年夏季オリンピック・リオデジャネイロ大会からの 7 人制ラグビー（男女）の競技採用を受け、国内での普及・育成・強化を図るため「JRFU 戦略計画 2010-2019」を策定した。なかでも、日本ラグビーの国際力を高める方策のひとつに 7 人制ラグビーの強化を挙げ、高校女子世代の国内大会の充実を目的に「高等学校女子 7 人制ラグビーフットボール大会」を 2011 年度から実施している。

上記 21 大会中、本研究で試算の対象としたのは、

- ・全日本高等学校ラグビーフットボール大会
- ・全国大学ラグビーフットボール選手権大会
- ・日本ラグビーフットボール選手権大会

の 3 大会である。なお「全国大学ラグビーフットボール選手権大会」と「日本ラグビーフットボール選手権大会」については、調査日程との関係で 2012 年度の大会について試算した。

表 5 日本ラグビーフットボール協会の主催大会（2013 年度）

No.		年代	大会名
1	主催	ジュニア	第19回 全国ジュニア・ラグビーフットボール大会
2	主催	ジュニア	第4回全国中学生ラグビーフットボール大会
3	主催	ジュニア	第10回 全国小学生タグラグビー選手権大会
4	主催	高校	第3回全国高等学校女子7人制ラグビーフットボール大会
5	主催	高校	第9回全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会
6	主催	高校	ジャパンセブンズ2013高校の部
7	主催	高校	第14回 全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会
8	共催	高校	第44回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会
9	共催	高校	第93回全国高等学校ラグビーフットボール大会
10	主催	学生	2013年学生クラブ東西交流ラグビーフェスティバル・イン・菅平
11	主催	学生	第12回 東西学生クラブ対抗試合
12	主催	学生	第63回 全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会
13	主催	学生	第50回全国大学ラグビーフットボール選手権大会
14	主催	一般	第20回全国クラブラグビーフットボール大会
15	主催	一般	第54回 YC&AC JAPAN SEVENS
16	主催	一般	ウイダー・ジャパンセブンズ2013
17	主催	一般	第51回日本ラグビーフットボール選手権大会
18	主催	一般	2013-2014ジャパンラグビートップリーグ
19	主催	一般	第26回女子ラグビー交流大会
20	主催	一般	Japan Women's Sevens 2014
21	共催	一般	第68回国民体育大会ラグビーフットボール競技

資料：JRFU ウェブサイトより作成

2-2 ケース1 全日本高等学校ラグビーフットボール大会

(1) 大会の概要

- ・ 名 称 第 93 回全国高等学校ラグビーフットボール大会
- ・ 開催期間 2013 年 12 月 27 日（金）～2014 年 1 月 7 日（火）
- ・ 会 場 近鉄花園ラグビー場（大阪府東大阪市）ほか

全日本高等学校ラグビーフットボール大会（以下、高校選手権）は毎年、近鉄花園ラグビー場で上記の時期に開催される。本大会は、全国高等学校総合体育大会の一環であり、冬季大会（4 競技）のひとつとして開催される。

(2) 移動費の計算

高校選手権は、北海道と東京都が 2 校、大阪府が 3 校、他の府県は各 1 校が出場している。51 校の出場チームについて、計算方法は以下のとおりである。

1) 出発地は県庁所在地の駅とする。沖縄県については、那覇空港とする。また、兵庫県（元町駅）、福岡県（博多駅）、鹿児島県（鹿児島中央駅）は、県庁所在市の名と出発する駅名が異なる。

2) 航空機の使用については、

- ・ 陸路では近鉄奈良線東花園駅まで 5 時間 30 分以上かかる
- ・ 空路利用の方が陸路より 2 時間以上早い

のいずれかを満たす場合に選択するものとする。該当するのは、北海道、青森県、秋田県、山形県、宮崎県、沖縄県の 6 道県である。

3) 経路にバスを含めるのは、以下の場合である。

- ・ 出発地が徳島県の場合、鉄道より時間短縮が見込めるため徳島駅から高速バス可
- ・ 出発する駅から最寄りの空港までのバス（札幌駅から新千歳空港など）
- ・ 伊丹空港および関西空港からの移動

他の高速路線バスは使用しないものとする。

4) 片道 100km を超える場合は、有料特急の料金を適用する。

5) 特急は新幹線を含め指定席料金で計算する。

6) 鉄道は団体割引を適用するものとし、各鉄道会社の割引率により算出する。航空機の場合、学校研修割引運賃等の団体割引の適用に該当するが、航空会社と旅行会社の間で定められた割引額は公表されない。そのため、航空機は団体割引を適用しない。

これらを条件に運賃検索サイト「ジョルダン」を使用し、1) の出発地から近鉄奈良線東花園駅までの料金を算出した。なお、運賃は研究時の 2014 年 3 月 14 日午後 3 時に競技会場へ到着するものを統一条件とし、複数の路線がある場合には、最も出発時刻が遅いものを選んだ。

移動費の1人あたりの単純平均は19,489円である(表6)。テニスについて計算した愛知県名古屋市、東京都昭島市より東花園駅(大阪府東大阪市)のほうが団体割引の適用もあり安価であった。

つぎに実際の移動費だが、ラグビーは15人制だが、登録できる競技者が23人で、これに監督、マネジャー、23人に入れなかった選手等を加えると、全国大会に出場する強豪校であれば、1チーム40人程度と想定し試算する。これに学校からの応援団、保護者が加わるのだが、本研究では計算の範囲には含めない。したがって、この大会のために移動する「出場校関係者」は、51チーム2,040人である。

仮に1チーム40人だとすると、公共交通を利用しない可能性もあるだろう。たとえば高校が大型バスを保有しているかもしれない。ここでは、すべての高校が公共交通を利用すると仮定する。移動費の計算方法は、前頁6)に準じて、鉄道運賃はJR各社および近鉄の学生団体割引を適用する。すなわち、JRは1人あたりの運賃が50%引きとなり、近鉄は1人あたりの運賃が20%引きとなる。そうすると、移動費の総額は4,000万円であった。

このほか、JRFUは本大会に53人の審判を全国から大会会場へ派遣しており、その往復にかかる移動費総額は、921,920円であった。

表 6 第 93 回全国高等学校ラグビーフットボール大会の参加人数と移動費

都道府県	県庁所在地 (起点)	往復移動費 (1人当たり)	参加人数(人)	移動費総額(円)
北海道	札幌	90,820	80	7,265,600
青森県	青森	81,080	40	3,243,200
岩手県	盛岡	23,120	40	924,800
宮城県	仙台	16,830	40	673,200
秋田県	秋田	73,340	40	2,933,600
山形県	山形	70,500	40	2,820,000
福島県	福島	20,520	40	820,800
茨城県	水戸	17,100	40	684,000
栃木県	宇都宮	18,200	40	728,000
群馬県	前橋	18,200	40	728,000
埼玉県	大宮	16,950	40	678,000
千葉県	千葉	14,450	40	578,000
東京都	東京	14,450	80	1,156,000
神奈川県	横浜	14,130	40	565,200
新潟県	新潟	21,780	40	871,200
富山県	富山	8,370	40	334,800
石川県	金沢	7,110	40	284,400
福井県	福井	6,480	40	259,200
山梨県	甲府	14,530	40	581,200
長野県	長野	12,640	40	505,600
岐阜県	岐阜	6,460	40	258,400
静岡県	静岡	10,350	40	414,000
愛知県	名古屋	6,040	40	241,600
三重県	津	3,320	40	132,800
滋賀県	大津	1,510	40	60,400
京都府	京都	1,220	40	48,800
大阪府	大阪	580	120	69,600
兵庫県	元町	1,040	40	41,600
奈良県	奈良	624	40	24,960
和歌山県	和歌山	1,450	40	58,000
鳥取県	鳥取	7,110	40	284,400
島根県	松江	12,220	40	488,800
岡山県	岡山	6,460	40	258,400
広島県	広島	10,550	40	422,000
山口県	山口	13,290	40	531,600
徳島県	徳島	8,424	40	336,960
香川県	高松	8,140	40	325,600
愛媛県	松山	12,640	40	505,600
高知県	高知	9,610	40	384,400
福岡県	博多	15,290	40	611,600
佐賀県	佐賀	17,210	40	688,400
長崎県	長崎	16,440	40	657,600
熊本県	熊本	19,740	40	789,600
大分県	大分	15,810	40	632,400
宮崎県	宮崎	53,220	40	2,128,800
鹿児島県	鹿児島中央	22,090	40	883,600
沖縄県	那覇空港	74,540	40	2,981,600
平均/合計		19,489	2,040	40,896,320

(3) 滞在費の計算

高校選手権の日程は以下のとおりである。

開会式 12月27日(金)
1回戦 12月27日(金)、28日(土)
2回戦 12月30日(月)
3回戦 1月1日(水)
4回戦 1月3日(金)
準決勝 1月5日(日)
決勝 1月7日(火)

大会の公式ウェブサイトを見ると、1回戦は19試合、つまり38チームで、残り13チームが2回戦から登場する。ただしこの13チームについても、開会式前日から40人で花園ラグビー場周辺に滞在していると仮定する。また、宿泊のルールは、テニスの場合は「試合の前日には宿泊し、当日敗退していれば宿泊しない」だったが、試合が1日おきないし中2日なので、ルールとしては「当日敗退していれば宿泊しない」だけにした。

そうすると、1回戦は27日に8試合、28日に11試合行われている。換言すれば、27日に8チーム、28日に11チームが敗退して帰る。勝っていれば正月も花園に居残っているのだとすると、宿泊しているチーム数は、12月26日から順に51、43、32、32、16、16、8、8、4、4、2、2となり、計218である。1チームは40人と仮定しているので、人数は8,720人、1人1泊10,000円とすると、9,000万円弱の宿泊費になる。これにJRFUが派遣する53人の審判のうち、宿泊を伴う49人計103泊分の約120万円が加わる。したがって高校ラグビーは移動費とあわせて1.3億円を費消していることになる。

2-3 ケース2 全国大学ラグビーフットボール選手権大会

(1) 大会の概要

名 称 第 49 回 全国大学ラグビーフットボール選手権大会

開催期間 2012 年 11 月 18 日（日）～2013 年 1 月 13 日（日）

会 場

ユアテックスタジアム仙台（仙台市泉区）

県営熊谷ラグビー場（埼玉県熊谷市）

秩父宮ラグビー場（東京都港区）

国立霞ヶ丘競技場（東京都新宿区）

西京極総合運動公園陸上競技場兼球技場（京都市右京区）

長居スタジアム（大阪市東住吉区）

近鉄花園ラグビー場（大阪府東大阪市）

レベルファイブスタジアム（福岡市博多区）

KK ウイング（熊本県熊本市）

全国大学ラグビーフットボール選手権大会（以下、大学選手権）は高校選手権とは違い、約 2 ヶ月、毎週末に分散開催される。したがって「大学選手権の開催地」という設定がない。試合方式は、3 チームによるファーストステージと、そこから勝ち上がった 1 チームを加えた 16 チームによるセカンドステージまでがグループリーグ方式で、それぞれのグループ首位 4 チームによる準々決勝からトーナメント方式になる。

(2) 移動費の計算

大学選手権は、全国から 18 チームが出場する。本大会は、試合会場により移動費が大きく変わることになるため、実際の試合のとおり計算した。すなわちたとえば、東北学院大学は熊谷ラグビー場で 1 試合、西京極総合運動公園陸上競技場兼球技場で 1 試合を行っているので、それぞれについて仙台駅からの移動費を計算する（表 7）。18 校の出場チームについて、基本的に高校選手権の計算方法（p.19 参照）と同じとし、以下に異なる項について記載する。

1) 出発地はチームの練習拠点のある都道府県庁所在地の駅とし、各競技場の最寄駅を目的地とする。たとえば、慶應義塾大学、東海大学は本部を東京都に置くが、練習拠点は神奈川県のため神奈川県のチーム、立命館大学は本部を京都府に置くが、練習拠点は滋賀県のため滋賀県のチームとなる。

2) 航空機の使用に該当するのは、岐阜県（朝日大学）のチームが熊本県で試合を行うケースと、福岡県（福岡工業大学）のチームが埼玉県で試合を行うケースである。

これらを条件に運賃検索サイトを使用し、料金を算出した。なお、運賃は研究時の 2014 年 3 月 14 日午後 3 時に各競技会場へ到着するものを統一条件とし、複数の路線

がある場合には、最も出発時刻が遅いものを選んだ。

また、高校選手権と同様に、移動人数は1チームあたり40人とし、公共交通を利用することを前提とする。なお、試合会場と同じ都道府県に練習拠点があるチームについては移動費を考慮しない。また、鉄道運賃はJR各社と私鉄および地下鉄各線の学生団体割引を適用する。すなわち、JRは1人あたりの運賃が50%引きとなり、私鉄および地下鉄の1人あたりの運賃が20%引きとなる。これに基づいて計算すると、総移動費は2,100万円になる。

表7 第49回全国大学ラグビーフットボール選手権大会の試合数と移動費

No.	大学名	練習拠点 所在地	会場別試合数								試合数 合計	往復移動費 (1人あたり)	移動費 総額(円)
			宮城	埼玉	東京	京都	長居	花園	福岡	熊本			
			泉中央	熊谷	外苑前	西京極	長居	東花園	福岡空港	三里木			
1	東北学院大学	仙台市泉区	0	1	0	1	0	0	0	0	2	35,294	1,411,760
2	流通経済大学	茨城県龍ヶ崎市	0	1	1	1	0	0	0	0	3	25,960	1,038,400
3	筑波大学	茨城県つくば市	0	0	4	0	0	1	0	0	5	34,534	1,381,360
4	早稲田大学	東京都杉並区	0	0	2	0	1	1	0	0	4	28,996	1,159,840
5	明治大学	東京都世田谷区	1	1	1	0	0	0	0	0	3	12,464	498,560
6	帝京大学	東京都日野市	0	0	4	0	0	0	1	0	5	22,720	908,800
7	法政大学	東京都町田市	0	1	1	0	0	0	1	0	3	23,830	953,200
8	日本大学	東京都稲城市	1	1	0	0	0	0	1	0	3	35,184	1,407,360
9	拓殖大学	東京都八王子市	0	0	1	0	0	1	1	0	3	37,170	1,486,800
10	慶應義塾大学	神奈川県横浜市	0	1	1	1	0	0	0	0	3	16,020	640,800
11	東海大学	神奈川県平塚市	0	1	3	0	0	0	0	0	4	3,828	153,120
12	朝日大学	岐阜県瑞穂市	0	0	0	1	0	0	0	1	2	47,224	1,888,960
13	立命館大学	滋賀県草津市	0	0	1	0	1	1	0	0	3	16,602	664,080
14	天理大学	奈良県天理市	0	1	0	0	1	1	0	0	3	15,670	626,800
15	近畿大学	大阪府東大阪市	0	1	1	0	0	0	1	0	3	47,386	1,895,440
16	大阪体育大学	大阪府泉南郡	0	0	0	1	0	2	0	0	3	624	24,960
17	関西学院大学	兵庫県西宮市	0	0	0	1	0	1	1	0	3	16,526	661,040
18	福岡工業大学	福岡県糟屋郡	0	1	0	0	1	0	2	1	5	113,726	4,549,040
平均／合計												29,653	21,350,320

注：往復移動費（1人あたり）は参加した全試合の移動費の合計。

（３）滞在費の計算

大学選手権は、ベスト 4 決定までがグループリーグ方式で、以降はトーナメントになる。ファーストステージから出場する 3 チームのうち 2 チームは 2 試合で敗退となる。ファーストステージを勝ち上がった 1 チームと、セカンドステージから出場する 15 チームは 4 グループに分かれて 3 試合ずつを消化する。それぞれのグループの首位はベスト 4 として準々決勝からのトーナメント戦に出場することになる。そのため、最低で 2 試合、最高で 7 試合の出場となるが、今大会ではファーストステージから決勝まで勝ち残るチームはなく、最高出場数は 5 試合となった。全 18 チームによる試合数の合計は 60 試合であった。

滞在費については、高校選手権と違い競技会場は同一でなく、試合日も連続しないが、試合当日に選手が集合できないリスクを減らすため、練習拠点の近隣都府県で開催される試合でも前泊することが慣例であり、各チームの試合数分の宿泊が発生する（表 8）。費用は、テニスの滞在費に倣い 1 泊 12,000 円で計算すると、滞在費の総額は 2,900 万円程度で、移動費と合わせると約 5,000 万円であった。

表 8 第 49 回全国大学ラグビーフットボール選手権大会の各チームの試合数と滞在費

大学名	練習拠点 所在地	会場別試合数								試合数 合計	滞在費 総額(円)
		宮城 泉中央	埼玉 熊谷	東京 外苑前	京都 西京極	長居 長居	花園 東花園	福岡 福岡空港	熊本 三里木		
東北学院大学	仙台市泉区	0	1	0	1	0	0	0	0	2	960,000
流通経済大学	茨城県龍ヶ崎市	0	1	1	1	0	0	0	0	3	1,440,000
筑波大学	茨城県つくば市	0	0	4	0	0	1	0	0	5	2,400,000
早稲田大学	東京都杉並区	0	0	2	0	1	1	0	0	4	1,920,000
明治大学	東京都世田谷区	1	1	1	0	0	0	0	0	3	1,440,000
帝京大学	東京都日野市	0	0	4	0	0	0	1	0	5	2,400,000
法政大学	東京都町田市	0	1	1	0	0	0	1	0	3	1,440,000
日本大学	東京都稲城市	1	1	0	0	0	0	1	0	3	1,440,000
拓殖大学	東京都八王子市	0	0	1	0	0	1	1	0	3	1,440,000
慶應義塾大学	神奈川県横浜市	0	1	1	1	0	0	0	0	3	1,440,000
東海大学	神奈川県平塚市	0	1	3	0	0	0	0	0	4	1,920,000
朝日大学	岐阜県瑞穂市	0	0	0	1	0	0	0	1	2	960,000
立命館大学	滋賀県草津市	0	0	1	0	1	1	0	0	3	1,440,000
天理大学	奈良県天理市	0	1	0	0	1	1	0	0	3	1,440,000
近畿大学	大阪府東大阪市	0	1	1	0	0	0	1	0	3	1,440,000
大阪体育大学	大阪府泉南郡	0	0	0	1	0	2	0	0	3	1,440,000
関西学院大学	兵庫県西宮市	0	0	0	1	0	1	1	0	3	1,440,000
福岡工業大学	福岡県糟屋郡	0	1	0	0	1	0	2	1	5	2,400,000
合計										60	28,800,000

2-4 ケース3 日本ラグビーフットボール選手権大会

(1) 大会の概要

- ・ 名 称 第 50 回日本ラグビーフットボール選手権大会
- ・ 期 間 2013 年 2 月 2 日（土）～24 日（日）
- ・ 会 場 秩父宮ラグビー場（東京都港区）
国立霞ヶ丘競技場（東京都新宿区）
近鉄花園ラグビー場（大阪府東大阪市）

日本ラグビーフットボール選手権大会（以下、日本選手権）は、ジャパントップリーグでプレーオフに進出した 4 チームとワイルドカードを勝ち上がった 2 チーム、2 部リーグ 1 位チーム、全国クラブ大会優勝チーム、大学選手権 1・2 位チームで争われる。試合方式は、出場 10 チームによるトーナメント方式で、トップリーグ優勝・準優勝チームは準決勝から登場する。

(2) 移動費の計算

日本選手権は、大会期間中の毎週末に開催される。したがって、出場チームが大会期間中会場近辺に滞在し続けるということがない。試合ごとに拠点から移動するものとする。出場 10 チームについて、基本的に高校選手権の計算方法（p.19 参照）と同じとし、以下に異なる項について記載する。

2) 航空機の使用に該当するのは、福岡県（コカ・コーラウエストレッドスパークス）のみである。

6) 鉄道は団体割引を適用するものとする。

これらを条件に運賃検索サイトを使用し、料金を算出した。

また、高校選手権・大学選手権と同様に、移動人数は 1 チームあたり 40 人とする。なお、出場チームのうち拠点が都内にある 3 チーム（東芝ブレイブルーパス、サントリーサンゴリアス、帝京大学）は東京都の競技会場までは移動費がかからないとする。花園ラグビー場で開催される場合は、兵庫県に拠点のある 2 チーム（六甲ファイティングブル、神戸製鋼コベルコスティーラーズ）について同様に移動費を考慮しない。また、鉄道運賃は JR 各社と私鉄および地下鉄各線の普通団体割引を適用する。すなわち、JR は 1 人あたりの運賃が 15%引きとなり、私鉄および地下鉄の 1 人あたりの運賃が 10%引きとなる。これに基づいて計算すると、移動費の合計は約 1,000 万円である（表 9）。

表 9 第 50 回日本ラグビーフットボール選手権大会の試合数と移動費

No.	チーム名	練習拠点 所在地	会場別試合数		試合数 合計	往復移動費 (1人あたり)	移動費総額(円)
			花園	国立/ 秩父宮			
1	パナソニックワイルドナイツ	群馬県太田市	1	2	3	47,963	1,918,520
2	筑波大学	茨城県つくば市	0	1	1	7,176	287,040
3	東芝ブレイブルーパス	東京都府中市	1	0	1	24,335	973,400
4	サントリーサンゴリアス	東京都府中市	0	2	2	0	0
5	帝京大学	東京都日野市	0	2	2	0	0
6	ヤマハ発動機ジュビロ	静岡県磐田市	1	0	1	18,436	737,440
7	トヨタ自動車ヴェルブリッツ	愛知県豊田市	1	0	1	11,296	451,840
8	六甲ファイティングブル	兵庫県芦屋市	0	1	1	25,057	1,002,280
9	神戸製鋼コベルコスティーラーズ	兵庫県神戸市	2	2	4	50,114	2,004,560
10	コカ・コーラウエストレッドスパークス	福岡市東区	0	2	2	76,464	3,058,560
平均／合計						32,605	10,433,640

注：往復移動費（1人あたり）は参加した全試合の移動費の合計。

(3) 滞在費の計算

日本選手権は、東京都 2 会場、大阪府 1 会場でトーナメント戦が行われる。1 回戦は 4 試合 (8 チーム)、2 回戦は 2 試合 (4 チーム)、準決勝からシード 2 チームが出場するため 2 試合 (4 チーム)、決勝 (2 チーム) となり、1 チームあたり最高で 4 試合に出場する。全 10 チームによる試合数の合計は 18 試合であった。

滞在費については、大学選手権と同様に、練習拠点の近隣都府で開催される試合の場合でも、選手の集合リスクを考慮して前泊を前提とするため、各チームの試合数分の宿泊が伴う (表 10)。費用は、これまで同様に 1 泊 12,000 円で計算すると、滞在費の総額は 864 万円で、移動費と合わせると約 1,800 万円であった。

表 10 第 50 回日本ラグビーフットボール選手権大会の各チームの試合数と滞在費

No.	チーム名	練習拠点 所在地	会場別試合数		試合数 合計	滞在費総額(円)
			花園	国立/ 秩父宮		
1	パナソニックワイルドナイツ	群馬県太田市	1	2	3	1,440,000
2	筑波大学	茨城県つくば市	0	1	1	480,000
3	東芝ブレイブルーパス	東京都府中市	1	0	1	480,000
4	サントリーサンゴリアス	東京都府中市	0	2	2	960,000
5	帝京大学	東京都日野市	0	2	2	960,000
6	ヤマハ発動機ジュビロ	静岡県磐田市	1	0	1	480,000
7	トヨタ自動車ヴェルブリッツ	愛知県豊田市	1	0	1	480,000
8	六甲ファイティングブル	兵庫県芦屋市	0	1	1	480,000
9	神戸製鋼コベルコスティーラーズ	兵庫県神戸市	2	2	4	1,920,000
10	コカ・コーラウエストレッドスパークス	福岡市東区	0	2	2	960,000
合計					18	8,640,000

「中央競技団体の主催大会に関する調査研究」研究会

■出席者（敬称略、所属機関 50 音順）

公益財団法人 日本テニス協会 事務局長

鈴木 宏

公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会 事務局

熊木 陽一郎

早稲田大学 スポーツ科学学院 教授

武藤 泰明

公益財団法人 笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 主任研究員

澁谷 茂樹

〃

研究員

吉田 智彦

中央競技団体の主催大会に関する調査研究 報告書

2014 年 3 月発行

発行者 公益財団法人 笹川スポーツ財団

〒107-6011 東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル 11F

TEL 03-5545-3303 FAX 03-5545-3305

E-mail info@ssf.or.jp URL <http://www.ssf.or.jp/>

無断転載、複製および転訳載を禁止します。引用の際は本書が出典であることを明記してください。

本事業は、ボートレースの交付金による日本財団の助成金を受けて実施しました。

